

東朋会ミニ通信

発行者 香川 修司
連絡先 事務局 加藤 光義
0467-730515
編集者 小倉進 島津晃

将来不安の中、会員を拡げ、事業活動の広がりを目指そう！

理事長 香川 修司

標題をテーマとして新年度の事業計画を理事会、評議員会で討議中です。

梅雨明け宣言が出され、本格的な夏の季節が到来しています。ただ、今年は気象の変化が荒く、九州地方を中心に台風や大雨が繰り返され被害が出ています。特に高齢者は災害弱者と言われる。ニュースでの被害者を聞くと、たいていが高齢者です。東朋会でも「高齢者のための防災ファイル」を同封して会員に発送しました。神奈川県下では茅ヶ崎市が最も早く、見直された防災マニュアルや津波ハザードマップを全戸に配布しました。ともに活用して、犠牲者にならないよう、心がけたいものです。

原発事故の復旧はまだ目処がたらず、その中で規制庁や安全基準の発足を待たずに原発を再開した政府の判断に、強い批判が起こっています。生活にも産業にも基本的な要素である、環境と電力エネルギーの将来方針ですから掘り下げた議論が必要です。

世界的には、ギリシャ危機に端を発したユーロ危機が、世界的な不況になる様相です。アラブの民衆革命とともに、混乱の時代に入ろうとしています。日本でも財政状況から社会保障の一体改革と称しての消費税の増税をめぐり、民主党が分裂、政界再編の様相を呈しています。復興、円高不況、産業空洞化対策や行政改革を先送りにした三党合意の増税方針に政治不信が強まっています。いずれにしても、いつかは増税と社会保障水準の引き下げが来る事を覚悟しなければなりません。周りを見ても、



2012年7月21日(土)
横浜プリズベイホテルにて47名が参加！

移動無線OB集いの会
大先輩から若手まで、およそ40年間の歴史を物語る集まりになり、久しぶりの再会に場を去り難い思いでした。ご参加の皆様には厚くお礼申し上げます。(有志幹事一同)

大震災やヨーロッパ不況の影響は大きく、ETCは縮小、TNSi、NCSは他地区へ移転し、相模事業所での東洋の面影は薄くなっています。高齢社会の本番を迎えるこの時代ですが、人と人との絆(きずな)がますます大切で、そのために東朋会はより多くの仲間、心の拠り所としての役割を広がります。昨年引き続き、次の基本方針で、新年度の事業計画の討議を行います。

1. 加入会員を広げる
2. 資金運用の改善
3. 従来行事を見直す
4. 福祉事業の進展
5. クラブハウスの建替

医療介護の話 No. 19 荒井副理事

高齢者の熱中症対策

梅雨が明ける頃から、熱中症で亡くなる高齢者が急増するのをご存じですか？

特に、一人暮らしの高齢者が、高温の部屋で発見されるケースが目立っています。高齢者が熱中症にかかりやすいのは、暑さを感じにくくなることや、「節約のため」「体が冷えるから」などの理由でエアコンをつけないことが原因です。

熱中症の初期症状である、頭痛や倦怠感などの症状が出ていても、自分が熱中症だとは気付かず、重症化するケースも増えています。

高齢者の熱中症を上手に防ぐポイントを紹介します。

1. 温・湿度計で、室温28度、湿度70%を超えないように部屋の温・湿度を調整することが大切です。
2. エアコンと扇風機を併用して節電する。エアコンと扇風機の併用は、電気代がかかりそうなのですが、扇風機と一緒に使ってエアコンの温度設

定を1〜2℃上げる方が節約になります。冷房は、風向を上に向けて、エアコンの冷気が直接身体に当たらないようにします。

3. のどが渇かなくても、水分をこまめに補給する。また、何度もトイレに行きたくないという気持ちから、水分補給を控えてしまう傾向にありますが、体内の水分量が足りないと熱中症になりやすいです。
4. 一人暮らしの高齢者を周囲で気遣う。出来るだけ近所の人が声をかけるなどして周囲の人が気遣ってあげましょう。

会員情報

(7月9日現在:391名)

〓 新会員 〓

- 小笠原伊勢子
- 小山田勲生
- 相原清美
- 木原栄造
- 原田秀一郎

〓 慶事 〓

- 伊東政幸
 - 「80才」傘寿
- 更に「活躍下さ



若さを信ずる